

## 八重山諸島西表島から得られた 絶滅危惧魚類ホウセキハタモドキ

中村潤平<sup>1</sup>・立原一憲<sup>2</sup>・福地伊芙映<sup>3</sup>・本村浩之<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 〒 892-0814 鹿児島市港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

<sup>2</sup> 〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 琉球大学理学部

<sup>3</sup> 〒 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 琉球大学大学院理工学研究科

<sup>4</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### はじめに

ホウセキハタモドキ *Epinephelus miliaris* (Valenciennes, 1830) は環境省が発行する海洋生物レッドリストにおいて絶滅危惧 IB 類に指定されているハタ科ハタ族魚類 (Serranidae: Epinephelini) であり (環境省, 2017), アフリカ東岸から日本, サモアにかけてのインド・太平洋の島嶼域に分布する (Cabanban and Sadovy de Mitcheson, 2011). 本種の日本国内における分布記録は少なく, これまで沖縄島と石垣島からのみ報告されていた (瀬能, 2013).

2019 年 6 月 12 日に八重山諸島西表島沖の水深 160 m で第 2 著者により 1 個体のホウセキハタモドキが釣獲された. 本標本は本種の西表島における初めての記録であるためここに報告し, 形態・色彩を詳細に記載する.

### 材料と方法

計数・計測方法は Randall and Heemstra (1991) にしたがった. 標準体長は体長または SL と表記し, 体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm の精度で行った. ホウセキハタモドキの生鮮時の体色

の記載は, 固定前に撮影された西表島産の標本 (KAUM-I. 131314) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. 本報告中で用いた KAUM と SMLB はそれぞれ鹿児島大学総合研究博物館と京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の研究機関略号である.

### 結果と考察

#### *Epinephelus miliaris* (Valenciennes, 1830)

ホウセキハタモドキ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 131314, 体長 340.6 mm, 沖縄県八重山郡竹富町祖納沖 西表島, 水深 160 m, 2019 年 6 月 12 日, 釣り, 立原一憲.

記載 背鰭条数 XI, 17; 臀鰭条数 III, 8; 胸鰭軟条数 17; 腹鰭条数 I, 5; 側線鱗数 49; 縦列鱗数 93; 鰓耙 8 + 15 = 23.

体各部の体長に対する割合 (%) : 頭長 40.0; 吻長 10.2; 体高 34.4; 体幅 16.9; 眼窩径 6.4; 両眼間隔長 7.0; 眼下骨高 4.1; 上顎長 16.4; 尾柄高 11.1; 尾柄長 20.3; 背鰭前長 35.3; 臀鰭前長 67.9; 腹鰭前長 37.9; 背鰭基底長 59.8; 背鰭第 1 棘長 6.0; 背鰭第 2 棘長 13.9; 背鰭第 3 棘長 16.3; 背鰭第 4 棘長 15.8; 背鰭第 5 棘長 14.6; 背鰭第 6 棘長 12.2; 背鰭第 7 棘長 11.4; 背鰭第 8 棘長 10.2; 背鰭第 9 棘長 10.1; 背鰭第 10 棘長 9.6; 背鰭第 11 棘長 9.1; 最長背鰭軟条長 (第 9 軟条)

Nakamura, J., K. Tachihara, I. Fukuchi and H. Motomura. 2020. Record of *Epinephelus miliaris* (Perciformes: Serranidae) from Iriomote-jima Island, Yaeyama Islands, Okinawa, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 499–502.

✉ HM: the Kagoshima University Museum, 1–21–30 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

Published online: 3 April 2020  
http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\_046/046-088.pdf

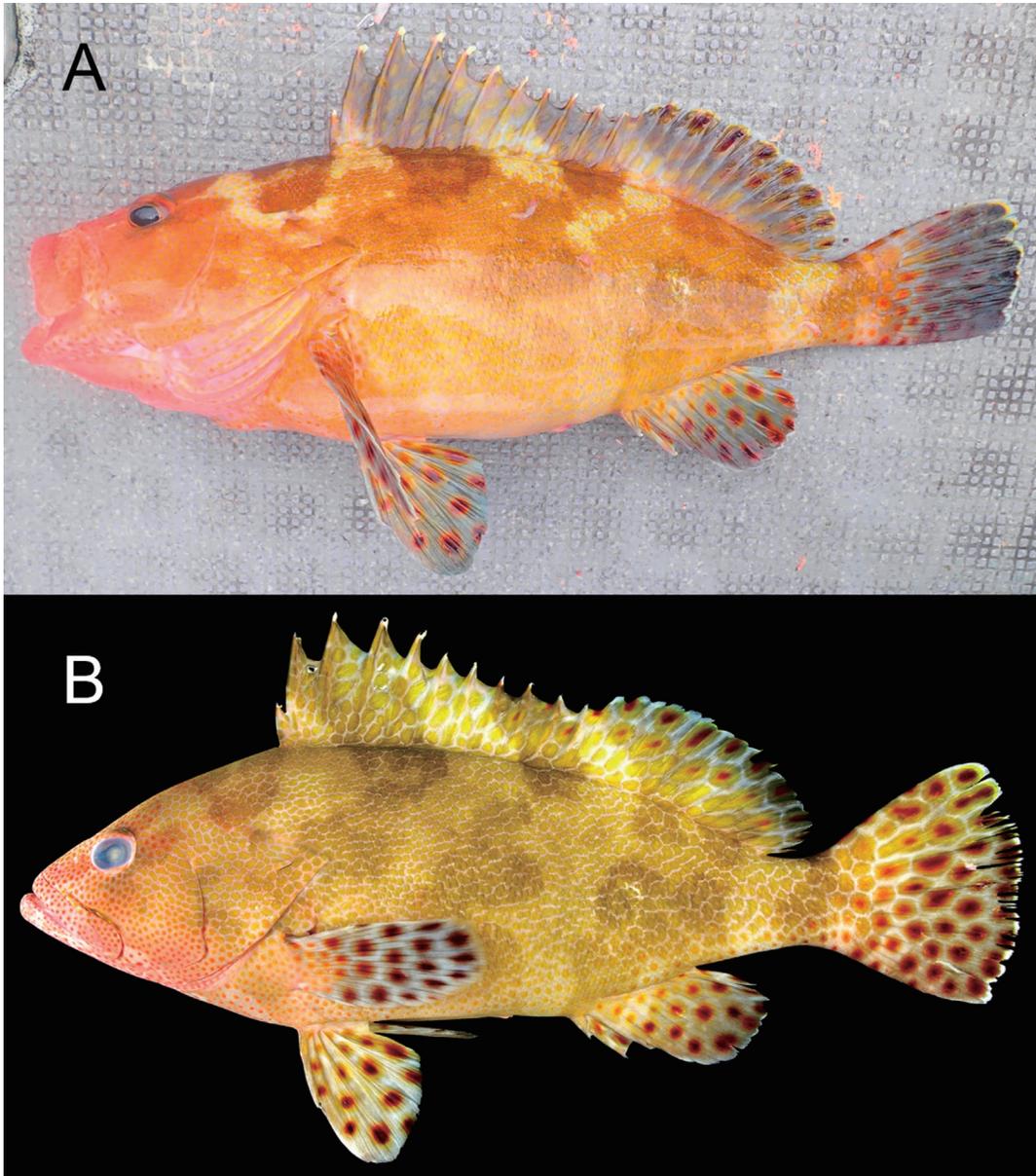


Fig. 1. Photographs of *Epinephelus miliaris* from off Iriomote-jima Island, Yaeyama Islands, Okinawa, southern Japan (KAUM-I. 131314, 340.6 mm SL). A: immediately after fishing (photo by K. Tachihara); B: fresh specimen.

13.6；臀鳍基底長 17.4；第 1 臀鳍棘長 5.7；第 2 臀鳍棘長 8.8；第 3 臀鳍棘長 10.4；最長臀鳍軟条長（第 3 軟条）16.4；尾鳍長 23.1；胸鳍長 24.4；腹鳍棘長 10.8；腹鳍長 20.9。

体は前後方向に長い楕円形でやや側扁する。体背縁は吻端から背鳍起部にかけて上昇し、そこから尾鳍基底部にかけて緩やかに下降する。頭部背面は眼の上方で僅かに凹む。体腹縁は下顎先端か

ら腹鳍起部にかけて下降し、そこから尾鳍基底にかけて緩やかに上昇する。眼は正円形を呈する。鼻孔は 2 対で近接し、眼の直前に位置する。前鼻孔は正円形で、後縁に皮弁を有する。後鼻孔は前後方向に長い楕円形で、皮弁を欠く。後鼻孔は前鼻孔より大きい。口は端位で口裂は大きい。上顎後端は眼の後縁直下より前方に位置する。下顎先端は吻端より前方に位置する。両唇は厚い。鰓耙

は棒状で細長い。前鰓蓋骨後縁は細かい棘が並び鋸歯状で、角の棘は他の棘より大きい。前鰓蓋骨下縁は円滑。鰓蓋後縁は円滑で、鰓蓋上部に3棘を有する。体側は櫛鱗に覆われるが、体側背部と腹部は円鱗に覆われる。眼と両鼻孔の周辺、鰓膜、および胸鰭腋部は無鱗。側線は完全で、鰓蓋後部上方から尾鰭基部にかけて入る。背鰭起部は鰓蓋後端より前方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より遥かに後方にそれぞれ位置する。背鰭各棘間の鰭膜は切れ込み、背鰭軟条部外縁は丸みを帯びる。背鰭棘は第1棘から第3棘にかけて徐々に長くなり、第3棘から第11棘にかけて徐々に短くなる。最長背鰭軟条（第9軟条）は最長背鰭棘（第3棘）より短い。胸鰭基底上端は背鰭起部直下付近、胸鰭基底下端は腹鰭起部直上付近にそれぞれ位置する。胸鰭後縁は丸く、後端は背鰭第9棘起部直下に位置する。腹鰭起部は背鰭起部直下より僅かに後方に位置する。腹鰭第5軟条は体と鰭膜で繋がる。たまただ腹鰭後端は肛門に達しない。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部直下付近、臀鰭基底後端は背鰭第12軟条起部直下付近にそれぞれ位置する。臀鰭第2棘は第3棘より短い。尾鰭は円形を呈する。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1B)：頭部後半部と体側（腹部を除く）に眼径より小さい黄褐色の斑点が密在し、地色（黄色がかった白色）と網目模様を形成する。頭部と体側の一部の斑点（頭部背面から頬部にかけて、背鰭棘部前部から鰓蓋後部にかけて、背鰭棘部後部から体腹部にかけて、背鰭軟条部中央部から臀鰭基部にかけて、および尾柄部）は他の斑点より色味が濃く、5本の幅広い不規則な横帯状になる。頭部前半部には濃い橙色の小斑点が密在する。体腹部に斑点はない。背鰭全体に頭部と体側の斑点より大きい不定形の黄褐色斑が密在し、後半部外縁には赤褐色点が黄褐色斑上に散在する。胸鰭に瞳孔大の赤褐色斑が散在する（基部周辺の斑点は他の斑点より小さい）。腹鰭と臀鰭に瞳孔大の黄色に縁取られる赤褐色斑が散在する（基部周辺に斑点は他の斑点より小さい）。尾鰭に不規則な大きさの黄色に縁取られる赤褐色斑が密在し、上半部のものは網目模様を

形成する。尾鰭後縁は白色に縁取られる。瞳孔は黒色。

**分布** アフリカ東岸から日本、サモアにかけてのインド・太平洋の島嶼域に分布する (Cabanban and Sadovy de Mitcheson, 2011)。日本国内においては沖縄島と石垣島からのみ記録されていたが (益田ほか, 1975; Katayama, 1978; 瀬能, 2013)、本研究により新たに西表島における分布が確認された。

**備考** 本標本は背鰭鰭条数が XI, 17, 側線鱗数が 49, 縦列鱗数が 93, 総鰓耙数が 23, 尾鰭が円形、頭部背面が眼の上方で僅かに凹む、上顎後端が眼の後縁直下に達しない、背鰭第3棘が最長、頭部と体側に眼径より小さく網目模様を形成する黄褐色の斑点が密在する、および各鰭に体側の斑点より大きい赤褐色斑を有することなどの特徴により Randall and Heemstra (1991), Cabanban and Sadovy de Mitcheson (2011), および瀬能 (2013) の報告した *Epinephelus miliaris* の標徴と一致したため本種と同定された。

*Epinephelus miliaris* は益田ほか (1975) により沖縄島から得られた2個体 (SMBL-F 73292, 体長 283.1 mm; SMBL-F 73293, 体長 324.0 mm) に基づき日本初記録の *E. dictyophorus* として報告され、和名ホウセキハタモドキが提唱された。その後、Katayama (1978) は石垣島から得られた本種1個体 (Katayama's Fish Collection No. 5700, 体長 396 mm) を *E. dictyophorus* として報告した。なお、*E. dictyophorus* は現在 *E. miliaris* の新参異名とされている (Randall and Heemstra, 1991)。

上述の2報以外に国内における産地情報を伴うホウセキハタモドキの記録は知られておらず、本種は国内において沖縄島と石垣島からのみ記録されていた。そのため、本報告はホウセキハタモドキの西表島からの初めての記録となる。

**比較標本** ホウセキハタモドキ *E. miliaris*, 2個体 (体長 324.5–366.0 mm; いずれも魚市場泊いゆまちにて購入、詳細な産地は不明であるが奄美群島から八重山諸島にかけての琉球列島沿岸域で漁獲) : KAUM-I. 71390, 体長 366.0 mm, 琉球列島南部, 2015年2月16日, 桜井雄;

KAUM-I. 116036, 体長 324.5 mm, 琉球列島南部, 2018 年 3 月 15 日, 桜井 雄.

## ■ 謝辞

本稿執筆に際し, 神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士にはハウセキハタモドキの分布記録に関する貴重な情報をいただいた。京都大学舞鶴水産実験所の甲斐嘉晃博士と鹿児島大学大学院連合農学研究科の和田英敏氏には文献の収集にご協力いただいた。沖縄環境調査株式会社 of 桜井 雄氏には比較標本の採集にご協力いただいた。また, 鹿児島大学総合研究博物館のボランティアのみなさまと同博物館魚類分類学研究室のみなさまには標本の作成・登録に際し多大なるご協力を賜ったため感謝申し上げます。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は鹿児島県自然保全協会の研究助成, JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業— B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究

プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Cabanban, A. S. and Sadovy de Mitcheson, Y. J. 2011. *Epinephelus miliaris* (Valenciennes 1830). Pp. 194–195. In: Craig, M. T., Sadovy de Mitcheson, Y. J. and Heemstra, P. C. (eds.) *Groupers of the world. A field and market guide*. NISC, Grahamstown.
- 環境省. 2017. 別紙 1 ①:【魚類】海洋生物レッドリスト (2017): <https://www.env.go.jp/press/files/jp/106403.pdf> (2020 年 3 月 23 日閲覧)
- Katayama, M. 1978. Serranid fishes of the Okinawa Islands (IV). *UO*, 29: 1–12.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Randall, J. E. and Heemstra, P. C. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 20: 1–322.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 752–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.